

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第1回 LLW 埋設施設検査方法分科会 (F15SC) 議事録

1. 日時 2007年10月30日(火) 13:30~16:00
2. 場所 日本原燃(株) 東京事務所 第一会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
(出席委員) 川上(主査), 上田, 片岡, 加藤, 河上, 河西, 河村, 京谷, 後藤, 小山,
久田, 兵藤, 平川, 宮本, 山本, 吉森, 吉原(17名)
(代理出席委員) 山下(雨宮代理)
(欠席委員) 新堀(副主査)
(常時参加者) 岩谷, 枝松, 金子, 小藪, 佐久間, 庭瀬, 橋本, 広中, 邊見, 増田, 山
田, 山本(12名)
(欠席常時参加者) 大音, 廣永, 百瀬, 小野(4名)
(事務局) 岡村
4. 配布資料
F15SC1-1 標準委員会の活動について
F15SC1-2 人事について
F15SC1-3 低レベル放射性廃棄物(L1~L3)廃棄体及び埋設施設の概要
F15SC1-4 施設検査方法標準整備の目的、検討方針について
F15SC1-5 施設検査標準の規程範囲(案)
F15SC1-6 分科会審議スケジュール(案)
F15SC1-参考1 低レベル放射性廃棄物埋設施設検査方法の標準化について(分科会設立趣
意書)

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より、委員 19 名中、代理委員を含めて 18 名の出席があり、決議に必要な委員数（13 名以上）を満足している旨の報告があった。

(2) 標準委員会の活動について

事務局より、F15SC1-1 に沿って、標準委員会の組織図、活動状況、関連規約、分科会決議から発行までのスケジュールについて説明があった。

(3) 人事について

a. 主査の互選

事務局より主査の選任方法の説明の後、出席委員（18 名）による主査選任の無記名投票が行われ、川上委員 13 票、新堀委員 3 票、河西委員 2 票により、川上委員が主査に選出された。（委員総数の過半数以上（10 票以上）で選出）

b. 副主査の指名

主査より、新堀委員が副主査に指名された。

c. 幹事の指名

副主査が欠席のため、後日主査と副主査が協議して指名することとなった。

d. 分科会代表者の選任

主査が分科会代表者に選任された。

e. 常時参加者登録の承認

事務局より、F15SC1-2 に沿って、常時参加者登録希望の 16 名の紹介があり、採決の結果、全員の常時参加者登録が承認された。

その後、出席者全員で自己紹介を行った。

(4) 低レベル放射性廃棄物(L1～L3)廃棄体及び埋設施設の概要

F15SC1-3 に沿って、増田常時参加者よりこれから策定する標準の対象となる低レベル放射性廃棄物（L1～L3）廃棄体及び埋設施設の概要について説明が行われた。特に質疑等は無かった。

(5) 施設検査方法標準整備の目的、検討方針について

F15SC1-4 に沿って、増田常時参加者より施設検査方法標準整備の目的、検討方針について説明が行われ、議論の結果、施設完成時点、廃棄物受入時点、埋設時点等、時間軸に幅がある中で、埋設後管理の標準との取り合いも含めシステムとしてどのように安全性を確保するかが今後の課題として指摘された。

主な議論：

- ・ 施設検査（確認）は、法律上はつきり規定されているものがある。本標準の対象は、それにプラスアルファするものなのか、それを具体化するものなのか、両方なのか。
- ・ → 技術基準の項目は当然必要だが、それを含め安全確保のために事業者が実施すべき内容をまとめる方針である。
- ・ この検査標準では天然バリアは対象になるのか。例えば地下水流速等は検査対象か。
→ 判断基準が決められないものを検査標準に入れるのは難しい。安全レビューに使用するデータ蓄積も含め埋設後管理標準の対象となるのではないかと思われる。
- ・ 埋設施設の個々のパーツの検査も大事だが、パーツとパーツの接合部など、システムとしての確認も必要と思うが。
→ ご指摘通りである。個々の積上げとシステム全体性能の確認が重要と考えている。
- ・ 担保要件は操業に必要な要件と廃棄体埋設以降に必要な要件の2段階にまたがるのではないか。それをどのようにつなぐかが問題ではないか。
→ 同じ施設でも時間軸によって要求される性能が違うため、埋設後管理標準との調整が必要と思う。この検査標準では竣工時の検査方法ということで議論したい。

（6）施設検査標準の規程範囲（案）

F15SC1-5, F15SC1-5 別紙-1 に沿って、吉原委員より施設検査標準の規程範囲（案）について説明が行われ、対象範囲として、現状の施設で受入れ可能なサイクル廃棄物（ウランを除く）も含めて検討を進めること、周辺岩盤をどこまで考えるのかを検討すること、他の標準との分担等の調整を行って進めていくことなどの方向性が出された。

主な議論：

- ・ 対象廃棄物の適用範囲が「原子炉施設の・・・」では、サイクル廃棄物（ウランを除く）が入らないことになる。「原子炉施設及び再処理施設・・・」とし、サイクル廃棄物も含めるべきではないか。安全委員会では余裕深度処分にサイクル廃棄物を含めており、規制側もその方向で動いている。
→ 埋設できる可能性があればサイクル廃棄物も考慮すべきである。本標準は埋設施設の標準であり、施設設計を変えなくても受入可能な物は対象とすべきと考える。
→ サイクル廃棄物については、その施設に埋設が可能ならばサイクル廃棄物も取り入れていく方針で検討を進めることとしたい。
- ・ L1 では検査対象に周辺岩盤も含めるとのことだが、別紙-1 の L1 では、どこが該当するのか。坑道の部分か。岩盤は内容によっては検査が困難であるので良く考える必要がある。
→ 岩盤検査では、例えば支持力を考えている。その観点では、処分坑道間の岩盤の支持力等と施設周辺の岩盤の天然バリア性能とは区別すべきだと考えている。

(7) 分科会審議スケジュール（案）

F15SC1-6 に沿って、吉原委員より分科会審議スケジュール（案）の説明が行われた。特に意見等は無かった。

(8) 本分科会名称について

- ・ 事務局より、本分科会の名称は趣意書では「低レベル放射性廃棄物埋施設検査方法分科会」となっているが、埋設後管理では LLW となっており、整合を取るために「LLW 埋施設検査方法分科会」としてはどうかと提案があり、全会一致で決議された。

6. 今後の予定

第2回分科会は、来年1月の15日（火）～18日（金）の間で開催することとし、本日欠席の新堀副主査と調整の上、別途連絡することとした。

以 上